

自宅の「災害危険度」を調べよう

多くの自治体は、災害発生時の被害想定などを示したハザードマップを作成、公開しています。各種ハザードマップからは、地震発生時の建物倒壊や津波浸水予測、水害発生時の洪水予測など、地域のさまざまな「危険度」を知ることができます。

ハザードマップを入手して、自宅がある場所の災害危険度を調べてみましょう。わが家の災害危険度を客観的に把握することは、効果的な防災対策を講じるための第一歩です。



ハザードマップの入手先

国土交通省ハザードマップポータルサイト

全国の自治体がインターネット上に公開している各種ハザードマップにアクセスできます。

例えば、福岡市の洪水想定を調べたい場合、①「わがまちハザードマップ」の全国地図から福岡県を選択②災害種別から洪水ハザードマップを選択③県内地図から福岡市を選択して表示されるリンクをクリック④「福岡市浸水ハザードマップ」のページに遷移——してハザードマップを確認することができます。



市町村

多くの市町村では、各種ハザードマップを作成して住民に配布しています。配布された場合には、しっかり内容を確認し、すぐに取り出せる場所に保管しておきましょう。

市町村ハザードマップ

ハザードマップで確認したいポイント

洪水・土砂災害の場合

- 自宅等のある場所で指定されている浸水想定区域・土砂災害警戒区域など
- 指定緊急避難場所の位置、自宅から避難場所に至る経路、避難経路中の危険箇所
- 災害時に危険と思われる場所（アンダーパス、河川より低い道路など）
- 防災施設（消火設備、防災倉庫など）の位置



❗️ポイント! ハザードマップの活用法

- ① ハザードマップはあくまでも特定の想定に基づく被害予測です。想定を上回る被害になる危険性が常にあることを理解しましょう。
- ② 地震のハザードマップも確認し、危険箇所を把握しておきましょう。また、発災時に危険と思われる場所（ブロック塀、狭い道路など）や、地震によって土砂災害が発生する土砂災害警戒区域なども調べておきましょう。



「家族防災会議」を開こう

災害から家族の生命と財産を守るには、日頃からの備えが重要です。風水害や地震が発生した場合を具体的に想像しながら、普段の備えや、発災時の身の守り方、被災後の生活について、家族みんなで話し合う習慣をつけましょう。

災害は、家族がそろっているときに発生するとは限りません。家族が離ればなれになった場合なども想定し、安否確認の方法などについても事前に決めておきましょう。